

日 時	2025 年 6 月 14 日（土） 10:00 ～ 12:00 天候： 雨
場 所	湿地、2 階交流スペース

講座・活動名	湿地モニタリング調査 & 観察園全樹木調査 毎月第 2 土曜定例
参加者	10 名（うち子ども 名） 構成： 講師 2 名、（環境局 2 名） NTT 西日本関西支店 1 名、エコボラ 5 名、事務局 名
講師名	鈴木真裕（大工大）、北川ちえこ*（エコボラの場合氏名に * 印をつける）
内 容	生き物調査、標本作製、データ入力、（報告書作成） 毎木調査準備
使用器材 資材・道具	（持参、借用等も含む）PC、大型モニタ、マイクロスコープ、調査用紙、たも網、金魚網、バケツ、バット、タッパ、スポイト、エチルアルコール、バイアル瓶、ピンセット、古新聞紙、ラベル用中性紙、ケント紙、クリアポケット、タックラベル、水性のり
振り返り エコボラ通信に掲載することがあります。	・朝から強い雨が降り、いつも参加するメンバーが欠席して、通常の調査や作業ができない状況であった ・植物調査は講師のみで行い、土壌がやわらかくなっているので、周辺に繁茂してきたアレチヌスビトハギ、セイタカアワダチソウを抜き取る作業を行った（除草したものは、農事小屋に運搬してもらうこととした） ・動物調査は、すくい採り調査（7 個体）、ザリガニ駆除すくい（7 個体）のあと、もんどり（鯉節ときな粉）を沈めて室内でのソーティング後に、もんどりを引き上げた ・もんどりには、大きな個体がきな粉で 3 個体、鯉節で 1 個体入った ・NTT 西日本参加者は 1 名で、はずれた樹木ラベルを、ラミネートや紐遠しなどして作り直した（ラミネータは事務局から借り、100 ミクロン厚フィルムは薄く、2 重にする） ・クヌギの樹皮は固く、現在使用しているタッカーの針でははずれてしまうので、強い針を使用すること、細いシュロ紐は切れやすいので、もう少し太い径のものでとりつけること ・ラベルつけを始めた当初の「実生林」内の樹木は、はずれやすく、つけかえること ・もんどり引き上げ時に、西側水路の田んぼにつながる橋の上で、雨に打たれて弱っていたタヌキのこどもを発見、室内に持ち帰り、タオルで雨をぬぐって、その後、濡れないような橋の下にもどしてもらったところ、親を探して自力で歩いて移動していったとのこと ・タヌキの目撃例はきいたことがあったが、実際に見たのは初めてのことで記録したい
事務局への 伝達事項 次回案内等	★スケジュール変更について 9 月 13 日（土）は、ご都合により、9 月 7 日（日）10 時に変更 11 月 8 日（土）は、ECO 縁日と重なるので、11 月 9 日（日）10 時に変更

スタッフ氏名	活動内容	参加者氏名	活動内容
竹原秀樹	植物調査	（北川ちえこ）	植物調査
渡辺喜代子	動物調査	（鈴木真裕）	動物調査
榎元慶子	セイタカアワダチソウ除去	（環境局 2 名）	動物調査、連絡調整
中谷憲一	動物調査	NTT 西日本 1 名	樹木調査準備
林耕太	アレチヌスビトハギ除去、標本作製		

いずれかに○→（○）裏面に図面、写真等を添付した （ ）裏面なし （ ）詳細はファイルで提出

湿地の状況 250614



北方向

給水中

雨が降っていた すくい採りを先に実施

南方向



湿地の調査 250614



泥の中から探す
250614

アメリカザリガニの駆除



アメリカザリガニは、すくいとりで7個体、駆除7個体
もんどりはきな粉で3個体、鰹節で1個体

湿地の調査 250614



もんどのり設置 250614

引き上げは片付け後に



アメリカザリガニの駆除



アメリカザリガニ

もんどりにかかった
アメリカザリガニ
きな粉で3個体
鰹節で1個体

今回の餌は 鰹節ときな粉

湿地の生き物 250614



アメンボ



ゴマツムシ



エサキコムシ



湿地の生き物 250614



カワリヌマエビ属の一種



イトミミズ亜科の一種



ユスリカ科

ユスリカが増えたことはよい状況

湿地の生き物 250614



ヒメタニシ 矢印：カワナ



サカマキガイ



ハブタエモノアラガイ

湿地の生き物 250614



イグサ



ミソバ



ヒメジョオン

湿地の状況 250614

アレチヌスビトハギ、セイタカアワダチソウの抜きとり

セイタカアワダチソウ



南岸

アレチヌスビトハギ

- ✓南岸はアレチヌスビトハギが範囲を拡大、西岸にも広がり。圧倒する傾向なので抜き取った
- ✓北岸はセイタカアワダチソウが集中して広がったところは他の草が減っている状況で、抜き取った
- ✓周囲の成長した株も、今後を考え、選択的に抜き取った
- ✓ただし徹底駆除はしていない

北岸

セイタカアワダチソウ



西岸



アレチヌスビトハギ



抜いた草は農事小屋へ

観察園全樹木調査 250614

樹木ラベルのラミネートと紐のとりつけの検討



- 札がはずれていた樹木で、あらかじめわかっているものについて、札を新たにラミネートで制作（ラミネータは事務局に借りた）
- フィルム100ミクロン厚は、やや薄いので、2重にしてみた
- クヌギの樹皮は固く、現在使用しているタッカーの針でははずれてしまうので、強い針を使用すること
- 細いシュロ紐は切れやすいので、もう少し太い径のものでとりつけること
- ラベルつけを始めた当初の「実生林」内の樹木は、つけかえること

湿地周辺の生き物 250614



タヌキのこども

- 室内の片付け後に、鈴木講師がもんどりを引き上げに行くと途中の西側水路の橋の上に、雨に打たれて弱っていたタヌキのこどもを発見
- 室内に持ち帰り、タオルで雨をぬぐって、濡れないよう橋の下にもどしてもらった
- その後、親を探して自力で歩いて移動していったとのこと